The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	懐徳 第57号 彙報 / 奥付
Author(s)	
Citation	懐徳. 1988, 57, p. 137-140
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/90703
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

彙　報

（記念会）

事業報告

。昭和六十三年春季講座

大阪大学文学部ならびに大阪府立文化情報センターとの共催で、同センターを会場に五月二十三日（月）より二十七日（金）まで、毎回午後六時半より二時間の講演が行なわれた。古今東西にわたるテーマであったため、多様な聴講者がみられたことが今回の特色であった。延約四五〇名出席。

〈文化の大パトロンたち―文化投資の今昔―〉　大阪大学（名）　作道洋太郎

大阪の企業家と文化振興　大阪大学　天野　文雄

能とその保護者―形成期から現代まで―　大阪大学　天野　文雄

作曲家とそのパトロン―十八世紀ヴィーン古典派の場合―　大阪音楽大学　中村　孝義

パトロンとしてのローマ教皇ユリウス二世　福井大学　若山　映子

これからの文化を支えるもの　サントリー文化財団　佐野　善之

。昭和六十三年秋季講座

大阪大学文学部ならびに大阪府立文化情報センターと共催。会場は同センター。十月二十四日（月）より二十八日（金）まで、毎回午後六時半より八時半。今回は懐徳堂と同時代の文人たちをテーマに取りあげた。出席者延約五〇〇名。

〈江戸中後期の文人たち〉　大阪大学　黒川　洋一

詩人六如上人　大谷女子大学　山中　浩之

懐徳堂の文人―中井履軒を中心に―　広島大学　頼　祺一

頼山陽　大阪大学　武田　恒夫

文人画壇　関西大学　肥田　晧三

懐徳堂と池田の文人たち

役員動静

。昭和六十三年三月三十一日、当津武彦理事退任。

。四月一日、信多純一大阪大学文学部長、理事就任。

。九月三十日、十文字孝夫評議員退任。

。十月一日、上野保之大阪大学事務局長、評議員就任。

会務報告

。昭和六十三年四月二十八日、理事会評議員会を住友銀行本店会議室にて開催。堀田庄三理事長欠席のため、信多純一理事が議長を代行し、次の案件について審議が行なわれ、いずれも原案通り承認された。

理事の改選について

昭和六十二年度事業報告並びに決算について

昭和六十三年度事業計画並びに予算案について

なお、出席は堀田理事長の代理をはじめ、熊谷信昭、信多純一、弘世現、宮本又次の理事五名、加地伸行、片山良展、子安宣邦、時野谷勝、山田稔、脇田修の評議員六名、上中国夫、梅田治の幹事二名、計十三名であった。

（友の会）

事業報告

。復刻刊行

懐徳堂復刻叢書一『非徴』（中井竹山著、手稿本・一部刊本）、昭和六十三年二月刊行。B5版一六〇頁、上製本、箱入。定価七千円。吉川弘文館より発売。

。懐徳忌（第五回）

昭和六十三年三月二十七日、誓願寺（大阪市南区上本町）にて開催。午後二時より本堂で山中昌弘住職によって法要が営まれ、当津武彦副会長が代表焼香を行なった。墓前祭の後、有坂隆道・関西大学教授による講演「山片蟠桃」が行なわれた。参加者約四十名。

。「懐徳堂・友の会だより」

第十六号は昭和六十三年一月、第十七号（特別号）は同二月、第十八号は同四月、第十九号は同九月発行。

。懐徳堂古典講座（古典を読む会）

次の各コースが開講された。受講料は各コース各期毎に三千円（会員以外五千円）。

昭和六十三年三月、特別講座「三国志を読む（その二）」

ダイキン工業（株）会議室にて午後六時より。

三月四日　赤壁の戦前後　加地　伸行
三月七日　諸葛孔明の南征　武田　秀夫
三月十一日　三国時代の詩　富永　一登
三月十四日　出師の表　愛甲　弘志
三月十八日　秋風五丈原　河田　悌一

昭和六十三年度前期（四月〜八月）

新阪急ビル・スカイルームにて午後六時より。

「論語と易を読む」（毎月第一月曜）　加地伸行・山口久和
「十八史略を読む」（毎月第二月曜）　平木　康平
「漢詩を読む」（毎月第三月曜）　黒川　洋一
「仏典を読む—釈迦の伝記」（毎月第一金曜）　荒牧　典俊
「源氏物語を読む」（毎月第二金曜）　伊井　春樹
「江戸の思想を読む」（毎月第三金曜）　子安　宣邦

昭和六十三年九月、特別講座「三国志を読む（その三）」

新阪急ビル・スカイルームにて午後六時より。

九月五日　諸葛孔明（一）　加地　伸行
九月九日　諸葛孔明（二）　塩出　雅
九月十二日　諸葛孔明（三）　愛甲　弘志
九月十六日　諸葛孔明（四）　中村　圭爾
九月十九日　三国時代の詩文　富永　一登

昭和六十三年度後期（十月〜二月）

新阪急ビル・スカイルームにて午後六時より。

「論語と易を読む」（毎月第一月曜）　加地伸行・山口久和
「十八史略を読む」（毎月第二月曜）　平木　康平

「漢詩を読む」（毎月第三月曜）　青木　五郎
「仏典を読む―中国名僧伝抄」（毎月第一金曜）荒牧　典俊
「源氏物語を読む―夕顔」（毎月第二金曜）　伊井　春樹
「歌論を読む―子規から遡って真淵まで」
（毎月第三金曜日）子安宣邦・桜井　進

。資料展
昭和六十三年十月二十四日より二十八日まで、大阪府立文化情報センター第一セミナー室で開催。この一両年に収集した資料を中心に旧資料も加え、二十点を「懐徳堂と文人たち」と題して展示。

。資料収集
逆瀬家旧蔵資料第二次「荒木蘭皐書幅」他二十三点、『錦城詩稿』他近世邦人詩文集類三十冊（以上昭和六十二年度）。「中井竹山画像」一点、「頼杏坪宛尾藤二洲手簡」一点（以上昭和六十三年度）。なお冨子勝久氏より中井竹山筆「歌冬園」額一点が大阪大学懐徳堂文庫に寄贈された。

。見学会
第九回、昭和六十三年四月二日、京都国立博物館の「シーボルトと日本」展見学。同館土曜講座「日蘭交流のあゆみ」（講師は有坂隆道氏）聴講。解説は同館美術室長の狩野博幸氏。参加者三十名。
。第十回、同十月十五日、伊丹市の柿衞文庫で開催の「鬼貫と元禄の上方文化」展を見学。解説は同館学芸員今井美紀氏。伊丹市立美術館の「ゴヤ版画展」見学の後、小西酒造工場を見学した。参加者四十名。

役員動静
。昭和六十二年六月二十六日、上山善紀議員退任に伴い、金森茂一郎氏、協議員に就任。（前号彙報に追加）
。昭和六十三年二月二十六日、松下武義運営委員退任に伴い、野一色靖夫氏、運営委員に就任。
。四月一日、当津武彦副会長退任に伴い、信多純一氏、副会長（運営委員長）に就任。
。五月一日、徳永恂協議員退任に伴い、麻生誠氏、協議員に就任。
。六月二十九日、川勝堅二監事退任に伴い、渡辺滉氏、監事に就任。
。七月一日、梅本哲運営委員退任に伴い、芝井正氏、運営委員に就任。
。十月一日、十文字孝夫協議員退任に伴い、上野保之氏、協議員に就任。

会務報告
。昭和六十三年二月十六日、運営委員会を日本生命本社会議室にて開催。
。四月二十八日、協議会・監事会を住友銀行本店会議室で開催。山田稔副会長を議長として、次の事項について審議を行ない、いずれも原案通り承認された。
役員人事について（昨年の協議会以降の交替等について）
昭和六十二年度事業報告並びに決算について
昭和六十三年度事業計画並びに予算案について

新収資料（逆瀬家旧蔵資料〈第二次〉二十三点・伊藤東涯書簡一点・近世邦人詩文集類三十点）の報告と大阪大学への寄贈について

なお、弘世会長は急病のため代理出席となり、出席は山田稔副会長、信多純一副会長のほか、梅本純正（代理）、熊谷信昭、鈴木敬、宮本又次、矢守一彦、湯浅叡子の協議員六名、川勝堅二（代理）、巽外夫（代理）の監事二名、計十一名。運営委員の上中国夫、梅本哲、大村元宥、加地伸行、子安宣邦、脇田修の六名が陪席した。

（岸田知子記）

昭和六十三年十二月二十五日発行

懐　徳　第五七号

編集・発行　560 豊中市待兼山町一―一　大阪大学文学部内　懐徳堂記念会
編集責任者・信多純一

印刷　600 京都市下京区中堂寺鍵田町二　株式会社図書印刷
同　朋　舎